

経済学部のカリキュラム(2015年度～)

経済学部の学習成果との関連
(◎=強く関連、○=関連、△=やや関連)

科目名	科目区分	配当年次	科目の学習成果 (この科目の学習後に得られる学習成果を、学生を主語にして、行為動詞を使用して記入)	1) 経済学の基本的な考え方や理論を理解することができる	2) 経済現象や経済の歴史、制度を分析的に考察することができる	3) 経済分析に必要な情報や経済データを適切に選択・収集・処理することができる	4) 現実の経済における課題を分析し、その結果を適切に記述・表現することができる	5) 国際感覚と教養を身につけ、広い視野で物事をとらえることができる	6) 他者と協調し、適切にリーダーシップを発揮して様々な問題の解決への道筋をつけることができる
必修科目									
専門科目									
マクロ経済学入門	基礎科目 共通	1	マクロ経済学の基礎理論を習得し、一国経済全体の動きや活動について簡単な分析ができるようになる。	◎	○	○	△		
ミクロ経済学入門	基礎科目 共通	1	ミクロ経済学の基本である消費者行動、生産者行動、完全競争市場の概念が理解できる。	◎	○		△		
入門ゼミ	基礎科目 演習	1	経済学を学ぶための基本的な作法:文献・資料調査、レポート作成、発表、議論などができる。	○	○	○	○	○	◎
ジェネリックスキル科目									
日本語表現	基礎科目 表現力	1	文章を読みこなす力を養い、それを利用してレポートや論文の文章を自分で作成できるようになる。					○	
情報リテラシー	基礎科目 表現力	1	基本的な情報リテラシーを使って学生生活や学修を効果的にすすめることができる。			○		◎	
選択必修科目									
専門科目									
経済数学Ⅰ	基幹科目 共通	1	経済分析で不可欠の微分法および行列の初歩を修得する。	◎		○	○	△	
経済数学Ⅱ	基幹科目 共通	1	制約条件付き最適化問題の解法を修得する。	◎		○	○	△	
経済と経済学の歩み	基幹科目 共通	1	市場経済と経済学の歴史について、基礎的知識が獲得できる。	○	◎		△		
データから見た経済	基幹科目 共通	1	さまざまな経済データに関する知識を習得し、数値および図を用いて、経済の現状を要約できる。	○	○	○	○	○	
日本経済の仕組み	基幹科目 共通	1	日本経済の成長と変動の過程を学習することで、現在直面している経済問題に対する対応策を考案できる。	○	○	○	◎		
統計学の基礎	基幹科目 共通	1	データの構造を図示する方法と記述統計(平均・分散・相関)の意味を理解して、計算することができる。			◎		△	
マクロ経済学	基幹科目 共通	2	中級レベルのマクロ経済学を習得し、一国経済全体の活動や経済政策について、自分なりの分析ができるようになる。	◎	○	○	△		
ミクロ経済学	基幹科目 共通	2	ミクロ経済学入門での知識を踏まえ、ミクロ経済学の基礎を固めるとともに他の講義に活用できる知識が習得できる。	◎	○		△		
財政学Ⅰ	基幹科目 共通	2	ミクロ経済学・マクロ経済学的手法を用いて、政府がなぜ必要となるのか理解できる。	○	○	△	◎		
金融論Ⅰ	基幹科目 共通	2	金融に関する制度と理論を習得することを通じて、現実に行われている金融取引や金融経済を深く考察できる。	○	○	△	○		
国際経済学	基幹科目 共通	2	国際収支、為替相場、国際通貨制度、貿易自由化などについての基礎的知識を修得する。	○	○		△	△	
英書講読Ⅰ	基幹科目 共通	2	海外の大学で使用されている英文の経済学の教科書や関連文書を読むための基礎力を身に付けることができる。	△				◎	
英書講読Ⅱ	基幹科目 共通	2	ミッチェルの景気循環論を読み、英語力と景気に対する理解を深める。	△				◎	

経済学部のカリキュラム(2015年度～)

経済学部の学習成果との関連
(◎＝強く関連、○＝関連、△＝やや関連)

科目名	科目区分	配当年次	科目の学習成果 (この科目の学習後に得られる学習成果を、学生を主語にして、行為動詞を使用して記入)	1) 経済学の基本的な考え方や理論を理解することができる	2) 経済現象や経済の歴史、制度を分析的に考察することができる	3) 経済分析に必要な情報や経済データを適切に選択・収集・処理することができる	4) 現実の経済における課題を分析し、その結果を適切に記述・表現することができる	5) 国際感覚と教養を身につけ、広い視野で物事をとらえることができる	6) 他者と協調し、適切にリーダーシップを発揮して様々な問題の解決への道筋をつけることができる
必修科目									
専門科目									
英書講読Ⅲ	基幹科目 共通	2	専門的英語の、文脈を踏まえた正確な読解の方法を身につけるとともに、テキストの経済学用語や用法を学ぶ。	△				◎	
英書講読Ⅳ	基幹科目 共通	2	英文記事・教科書の輪読を通じて、英文読解力・報告技術・質問能力を涵養・習得できる。	△				◎	
計量経済学Ⅰ	基幹科目 経済分析	2	計量経済の基礎的な分析手法の学習を通じて、経済現象を数量的にとらえる力を身につけることができる。		○	◎	△		
景気変動論Ⅰ	基幹科目 経済分析	2	日米の戦後の景気循環を比較分析し、現在の景気状況を把握できる。	○	○	△	◎		
統計学	基幹科目 経済分析	2	基本的な分布の概念を理解し、標本と概念を身につけ、推測統計(検定・推計)の仕組みについて理解できる。			◎	◎		
経済学史Ⅰ	基幹科目 経済分析	2	経済学は一つではなくいろいろな経済学が存在することを理解することが出来る。	○	◎		△	○	
経済データ分析Ⅰ	基幹科目 経済分析	2	ゼミナール発表、卒業研究で必要となる経済情報処理を自律的に使いこなせる。			△	◎	○	
経済データ分析Ⅱ	基幹科目 経済分析	2	経済理論を理解するために有用な数値計算ができる。		△	◎		○	
産業組織論Ⅰ	基幹科目 経済分析	2	ミクロ経済学に依拠した完全競争・不完全競争の理論学習を通じて、社会における競争の重要性を理解できる。	◎	○			○	
経済政策	基幹科目 政策	2	経済政策の基礎理論に基づき、現実の政策的問題を考察できるようになる。	○	○	△	◎		
労働経済学Ⅰ	基幹科目 政策	2	働くか否か、雇うか否か、失業発生メカニズム等生活に関わる社会現象を経済学的根拠を持って理解できる。	○	○	○	◎		
社会保障論Ⅰ	基幹科目 政策	2	社会保障制度の歴史や現状を学び、現行制度が抱える問題を経済学的な視点から論理的に考察できる。	○	○	○	◎		
地方財政論	基幹科目 政策	2	都道府県や市町村が存在する理由や、その仕事内容を知ることを通じて、地方政府の重要性を理解できる。	△	○		◎		
環境経済学Ⅰ	基幹科目 政策	2	現実の環境問題の解決方法を経済学のフレームワークを使って説明できるようになる。	◎	○		○	△	
都市経済学	基幹科目 政策	2	都市の形成過程と都市内の空間利用について経済理論をもとに説明できる。	○	△		◎		
貿易論Ⅰ	基幹科目 国際経済	2	比較優位の概念を用いることにより、簡単な貿易構造について説明できるようになる。	◎	○		△		
国際金融論	基幹科目 国際経済	2	国際金融取引の背後にあるメカニズムについて、多角的視点から理解することができる。	△	○	○	○	○	
日本経済論	基幹科目 国際経済	2	戦後日本経済のパフォーマンスについての理解し、今後の日本経済の展望を考察できるようになる。	○	◎	○	◎		
西洋経済史Ⅰ	基幹科目 国際経済	2	歴史学と経済学双方に関わる経済史の特徴を理解し、経済分析における歴史的視点の重要性を学ぶ。	○	◎			○	

経済学部のカリキュラム(2015年度～)

経済学部の学習成果との関連
(◎=強く関連、○=関連、△=やや関連)

科目名	科目区分	配当年次	科目の学習成果 (この科目の学習後に得られる学習成果を、学生を主語にして、行為動詞を使用して記入)	1) 経済学の基本的な考え方や理論を理解することができる	2) 経済現象や経済の歴史、制度を分析的に考察することができる	3) 経済分析に必要な情報や経済データを適切に選択・収集・処理することができる	4) 現実の経済における課題を分析し、その結果を適切に記述・表現することができる	5) 国際感覚と教養を身につけ、広い視野で物事をとらえることができる	6) 他者と協調し、適切なリーダーシップを発揮して様々な問題の解決への道筋をつけることができる
必修科目									
専門科目									
日本経済史Ⅰ	基幹科目 国際経済	2	日本経済発展の歴史的前提について考察するための基礎的知識が獲得できる。	○	◎			△	
選択科目									
専門科目									
演習Ⅰ	演習	2	各指導教員に依存	○	○	○	○	○	◎
演習Ⅱ	演習	3	各指導教員に依存	○	○	○	○	○	◎
演習Ⅲ	演習	4	各指導教員に依存	○	○	○	○	○	◎
経済学特殊講義Ⅰ	展開科目 共通	3~4	担当教員に依存	科目に依存					
経済学特殊講義Ⅱ	展開科目 共通	3~4	担当教員に依存	科目に依存					
経済学特殊講義Ⅲ	展開科目 共通	3~4	担当教員に依存	科目に依存					
経済学特殊講義Ⅳ	展開科目 共通	3~4	担当教員に依存	科目に依存					
農業経済学	展開科目 経済分析	3~4	日本における食料・農業・農村経済の実態・特質について、基礎的知識が獲得できる。	○	△		◎		
産業連関分析	展開科目 経済分析	3~4	産業連関分析を用いて、経済構造を把握し、経済政策の数量的な評価について理解することができる。	○	○	◎	◎		
景気変動論Ⅱ	展開科目 経済分析	3~4	景気局面の転換の構造と10年周期を解明する。	○	○	△	◎		
経済統計論	展開科目 経済分析	3~4	様々な経済統計の仕組みと基本的な統計分析を学習することで、実際の経済現象を数量的に把握することができる。		△	◎	◎		
産業組織論Ⅱ	展開科目 経済分析	3~4	高度なミクロ経済学的手法を習得するとともに、その知識をもとに経済諸現象を理解し深く考察できる。	◎	○		○		
社会思想史	展開科目 経済分析	3~4	社会思想史の発展を学習し、社会的・客観的事項の変化と思想の変遷の間の相互作用を理解できる。		◎			◎	
経済成長論	展開科目 経済分析	3~4	経済成長論を習得し、卒業論文レベルの経済成長に関する理論研究がある程度できるようになる。	◎	○		△		
計量経済学Ⅱ	展開科目 経済分析	3~4	計量経済モデル分析の方法を学習し、実際の経済政策の数量的な評価の意味について理解することができる。	○	○	◎	◎		
経済学史Ⅱ	展開科目 経済分析	3~4	過去と現在の経済現象をさまざまな学説を用いて分析できる。	○	◎		○	○	
情報と不確実性の経済学	展開科目 経済分析	3~4	不確実性や情報の非対称性が存在する場合におけるミクロ経済分析の基礎を理解できる。	◎	◎		△		

経済学部のカリキュラム(2015年度～)

経済学部の学習成果との関連
(◎=強く関連、○=関連、△=やや関連)

科目名	科目区分	配当年次	科目の学習成果 (この科目の学習後に得られる学習成果を、学生を主語にして、行為動詞を使用して記入)	1) 経済学の基本的な考え方や理論を理解することができる	2) 経済現象や経済の歴史、制度を分析的に考察することができる	3) 経済分析に必要な情報や経済データを適切に選択・収集・処理することができる	4) 現実の経済における課題を分析し、その結果を適切に記述・表現することができる	5) 国際感覚と教養を身につけ、広い視野で物事をとらえることができる	6) 他者と協調し、適切にリーダーシップを発揮して様々な問題の解決への道筋をつけることができる
必修科目									
専門科目									
ゲーム理論	展開科目 経済分析	3~4	ゲーム理論を習得し、それをを用いて経済問題を分析できるようになる。	◎	○		△		
交通経済学	展開科目 経済分析	3~4	交通市場の仕組みとその分析方法について経済学的な観点から説明できる。	○	△	△	◎		
保険論	展開科目 経済分析	3~4	保険の基礎概念や様々な保険商品の特性について正しい知識を得ることができる。		◎		○		
社会保障論 II	展開科目 政策	3~4	中級レベルの経済学や統計学の知識を用いて、現在の社会保障制度が抱える問題を論理的に分析・考察できる。	○	○	○	◎		
文化経済学	展開科目 政策	3~4	文化を経済学のフレームワークで捉え、文化の保護、育成を政府、企業、一個人の立場から考察できる知識を得る。	△	△		◎		
医療経済学	展開科目 政策	3~4	中級レベルの経済学や統計学の知識を用いて、現在の医療制度が抱える問題を論理的に分析・考察できる。	○	○	○	◎		
財政政策	展開科目 政策	3~4	財政支出の拡大や減税などの現実の財政政策の効果を考え、評価できるようになる。	○	△	△	◎		
金融政策	展開科目 政策	3~4	金融政策に関する制度と理論を習得することを通じて、マクロ経済効果に関して理解することができる。	○	△	△	◎		
中小企業論	展開科目 政策	3~4	中小企業の在り方を経営学の考え方から学ぶとともに、自身のマネジメント能力も涵養することができる。			○	○		
環境経済学 II	展開科目 政策	3~4	企業の環境対策を巡る経済学的視点を学び、現実の環境経営に対して自分の意見を述べられるようになる。			○	◎	○	△
労働経済学 II	展開科目 政策	3~4	競争環境や人口構成、人々の意識など労働市場の変化を理解し、今後の対策にいて自身の頭で考えられるようになる。	○	○	○	◎		
金融論 II	展開科目 政策	3~4	ファイナンスに関する知識を身につけ、ファイナンスに関連する現実経済における事象を理解する能力を身につける。	○	○	△	○		
法と経済学	展開科目 政策	3~4	法制度や現実に観察される法現象をどのように経済学的にとらえるかについて理解する。	○	◎		◎		
銀行証券論	展開科目 政策	3~4	金融機関が金融取引で果たす役割や日本銀行の機能を理論・制度など多面的な視点から理解できる。	○	○	△	○		
教育経済学	展開科目 政策	3~4	教育を経済学的に分析することにより、教育の公共的役割を理解できる。	◎	△		○		
メディア経済論	展開科目 政策	3~4	メディアの特性や表現の意図を多角的視野から学び、その社会的・経済的影響を理解できる。	○	△	△	◎		
財政学 II	展開科目 政策	3~4	より高度な財政理論を修得でき、現在の財政問題を分析することができる。	◎	○		◎		
公共経済学	展開科目 政策	3~4	高度な経済学的手法を用いて政府に求められる政策を理解することができる。	◎	○	△	○		
貿易論 II	展開科目 国際経済	3~4	貿易理論が実証分析によりどのように発展してきたか説明できるようになる。	◎	○	△	○		

経済学部のカリキュラム(2015年度～)				経済学部の学習成果との関連 (◎＝強く関連、○＝関連、△＝やや関連)					
科目名	科目区分	配当年次	科目の学習成果 (この科目の学習後に得られる学習成果を、学生を主語にして、行為動詞を使用して記入)	1) 経済学の基本的な考え方や理論を理解することができる	2) 経済現象や経済の歴史、制度を分析的に考察することができる	3) 経済分析に必要な情報や経済データを適切に選択・収集・処理することができる	4) 現実の経済における課題を分析し、その結果を適切に記述・表現することができる	5) 国際感覚と教養を身につけ、広い視野で物事をとらえることができる	6) 他者と協調し、適切なリーダーシップを発揮して様々な問題の解決への道筋をつけることができる
必修科目									
専門科目									
国際マクロ経済学	展開科目 国際経済	3～4	国際経済や国際金融に関する制度と理論を習得し、その波及メカニズムと効果に関して理解することができる。	◎	○		○	△	
開発経済論	展開科目 国際経済	3～4	発展途上国における経済開発問題に関心を持ち、その実態、構造、経済開発の本質について説明できる。	○	○	○	○	○	
アジア経済論	展開科目 国際経済	3～4	アジア諸国の経済発展の歴史、および、現状と問題点について理解し説明できる。	△	○	○	◎	○	
日本経済史Ⅱ	展開科目 国際経済	3～4	日本経済の現状について、長期的・歴史的に考察するための基礎的知識が獲得できる。	○	◎			△	
国際要素移動論	展開科目 国際経済	3～4	資本や労働の国際間移動が経済社会のおよぼす影響を理解する。	◎	○		○	△	
多国籍企業論	展開科目 国際経済	3～4	企業の論理・行動と経済のグローバル化の実態を理解できる。	△	○	○	○	△	
ヨーロッパ経済論	展開科目 国際経済	3～4	EUを構成する各国経済の歴史を周辺国との関係性の中でとらえることができる。	△	○	○	◎	○	
アメリカ経済論	展開科目 国際経済	3～4	アメリカ発展の歴史を学ぶとともに、90年代以降のアメリカの世界経済における重要性について理解できる。	△	○	○	◎	○	
西洋経済史Ⅱ	展開科目 国際経済	3～4	産業の盛衰や経済の構造転換、イギリスを軸に世界経済の動向を学び、歴史的視点から経済を見る眼を養う。	○	◎			○	
中部経済論	展開科目 国際経済	3～4	地方行財政からみた名古屋の経済・産業の課題を認識した上で、今後の展望について議論できる。	△	○	○	◎		
中国経済論	展開科目 国際経済	3～4	中国経済の基本知識を習得し、激動の中国の実態をより客観的に理解できる。	△	○	○	◎	○	
貿易政策	展開科目 国際経済	3～4	種々の貿易政策の経済効果の善悪について説明できる。	○	○		◎		
経済関連科目									
特殊講義Ⅰ	基幹・展開科目 共通	1～4	担当教員に依存	科目に依存					
特殊講義Ⅱ	基幹・展開科目 共通	1～4	担当教員に依存	科目に依存					
特殊講義Ⅲ	基幹・展開科目 共通	2～4	担当教員に依存	科目に依存					
特殊講義Ⅳ	基幹・展開科目 共通	2～4	担当教員に依存	科目に依存					
歴史Ⅰ	基礎科目	1	日本における現在と過去との関係性を考えるための基礎的知識が獲得できる。		○			◎	
歴史Ⅱ	基礎科目	2～4	世界史を各国別・テーマ別に再構成して学び、多角的に知識を獲得・整理できる。		○			◎	
簿記Ⅰ	基礎科目	1	仕訳、勘定記入、帳簿作成について、その処理手続き手法を理解できるようになる。					◎	

経済学部のカリキュラム(2015年度～)

経済学部の学習成果との関連
(◎=強く関連、○=関連、△=やや関連)

科目名	科目区分	配当年次	科目の学習成果 (この科目の学習後に得られる学習成果を、学生を主語にして、行為動詞を使用して記入)	1) 経済学の基本的な考え方や理論を理解することができる	2) 経済現象や経済の歴史、制度を分析的に考察することができる	3) 経済分析に必要な情報や経済データを適切に選択・収集・処理することができる	4) 現実の経済における課題を分析し、その結果を適切に記述・表現することができる	5) 国際感覚と教養を身につけ、広い視野で物事をとらえることができる	6) 他者と協調し、適切にリーダーシップを発揮して様々な問題の解決への道筋をつけることができる
必修科目									
専門科目									
簿記Ⅱ	基礎科目	1	簿記の原理(考え方や処理方法)の技術的な手法を把握することができる。					◎	
経営学	基礎科目	1	各種業界とそこでのイノベーションの事例を軸に、企業経営の概要について理解できる。					◎	
民法Ⅰ	基幹・展開科目	2～4	権利の変動を中心に、日常生活に役立つ民法上の知識を習得することができる。					◎	
民法Ⅱ	基幹・展開科目	2～4	社会生活を円滑に過ごすのに欠かせない、民法上の権利義務関係についての知識を習得することができる。					◎	
民法Ⅲ	基幹・展開科目	2～4	債権と物権という2つの権利の相違・特徴・関連性について理解することができる。					◎	
商法Ⅰ	基幹・展開科目	2～4	企業の内容・特色を理解し、企業に関する多くの法律問題を解決する方法を身につけることができる。					◎	
商法Ⅱ	基幹・展開科目	2～4	株式会社制度に関する法規制を学び、株式会社に関する多くの法律問題を解決する方法を理解できる。					◎	
行政法	基幹・展開科目	2～4	様々な事例・判例を概観し、日常生活における行政法の重要性を認識することができる。					◎	
労働法	基幹・展開科目	2～4	労働の現場で紛糾化する諸事項に対して、どう法的対応がなされるべきか理解できる。					◎	
経済法	基幹・展開科目	2～4	独占禁止法の考え方についての学習を通じて、法学と経済学の観点から現実の諸問題を分析できるようになる。					◎	
税法	基幹・展開科目	2～4	租税法の体系的学習を通じて、一般社会に対応できる税についての基礎知識を習得できる。					◎	
会計学Ⅰ	基幹・展開科目	2～4	財務諸表についての基礎知識を習得し、新聞やニュース等での会計記事の内容を理解できるようになる。					◎	
会計学Ⅱ	基幹・展開科目	2～4	企業の経営戦略・経営計画や目標とされる経営諸比率の意味とそれぞれの関連性が理解できる。					◎	
国際法Ⅰ	基幹・展開科目	2～4	現代国際法の基本的枠組みや基本原理などを理解し、我々の日常生活とのかかわりが認識できる。					◎	
国際法Ⅱ	基幹・展開科目	2～4	国際的な諸問題を国際法を通して多角的に理解する視座を形成することができる。					◎	
ジェネリック・スキル科目									
ビジネス英語Ⅰ	基礎科目 語学力	1	ビジネス英語に慣れることができるだけでなく、アメリカにおけるビジネスのルールも習得することができる。					◎	
ビジネス英語Ⅱ	基礎科目 語学力	1	聴く、話す、読むの三位一体の学習で総合的な英語力を獲得するとともに、ビジネスマナーなども習得できる。					◎	
時事英語Ⅰ	基礎科目 語学力	1	多読・速読の練習から、英語での情報収集能力を高めることができる。					◎	
時事英語Ⅱ	基礎科目 語学力	1	世界経済に関する英語の記事を読むことで、英語力のみならず経済を見る目も養うことができる。					◎	

経済学部のカリキュラム(2015年度～)

経済学部の学習成果との関連
(◎＝強く関連、○＝関連、△＝やや関連)

科目名	科目区分	配当年次	科目の学習成果 (この科目の学習後に得られる学習成果を、学生を主語にして、行為動詞を使用して記入)	1) 経済学の基本的な考え方や理論を理解することができる	2) 経済現象や経済の歴史、制度を分析的に考察することができる	3) 経済分析に必要な情報や経済データを適切に選択・収集・処理することができる	4) 現実の経済における課題を分析し、その結果を適切に記述・表現することができる	5) 国際感覚と教養を身につけ、広い視野で物事をとらえることができる	6) 他者と協調し、適切なリーダーシップを発揮して様々な問題の解決への道筋をつけることができる
必修科目									
専門科目									
ロジカルシンキング	基幹科目 EXP(エグゼクティブ・プログラム)	2	論理的な情報の整理・組み立てを行うためのスキルを身につける。					○	◎
戦略思考とコンセプト思考	基幹科目 EXP(エグゼクティブ・プログラム)	2	本質を読み取り構想する力を養うことにより、事業戦略を策定するスキルを身につける。					○	◎
プレゼンテーションとコミュニケーション	展開科目 EXP(エグゼクティブ・プログラム)	3	プレゼンテーションとコミュニケーションのスキルを学び、相手に納得してもらおう効果的な伝え方を身につける。					○	◎
キャリア・マネジメントⅠ	展開科目 EXP(エグゼクティブ・プログラム)	3	自己理解力、他者理解力、主体性、フィードバック力などの社会人に求められる特性を高める。					△	◎
キャリア・マネジメントⅡ	展開科目 EXP(エグゼクティブ・プログラム)	3	自己理解力、他者理解力、主体性、フィードバック力などの社会人に求められる特性を高める。					△	◎
イングリッシュ・スキル	基幹・展開科目 語学力	2～4	英語の語学力を向上させ、国際的に活躍できる素養を磨くことができる。					◎	
インターンシップⅠ	基幹・展開科目 EXP(エグゼクティブ・プログラム)	2～4	環境順応力、問題の発見・解決や能動的な職場への取り組みに対する自主性などを身につけることができる。					○	◎
インターンシップⅡ	基幹・展開科目 EXP(エグゼクティブ・プログラム)	2～4	就業経験を通して、就業意識だけでなく、専門知識・能力を習得する意欲の向上も身につけられる。					○	◎
インターンシップⅢ	基幹・展開科目 EXP(エグゼクティブ・プログラム)	2～4	必要な専門知識・能力を向上させ、日本のみならず、国際的に活躍できる人材に一步でも近づけるようになる。					○	◎
海外ビジネス英語研修Ⅰ	基礎・基幹・展開科目 海外経験	1～4	異文化に触れることで、物事を見る角度・視野を広げ、世界中の人たちが何を考え、どう生活しているのかが学習できる。					◎	
海外ビジネス英語研修Ⅱ	基礎・基幹・展開科目 海外経験	1～4	異文化に触れることで、物事を見る角度・視野を広げ、世界中の人たちが何を考え、どう生活しているのかが学習できる。					◎	
海外語学研修	基礎・基幹・展開科目 海外経験	1～4	生きた英語や異文化に触れ、語学力の向上のみならず、忍耐力・異文化適応力を中心とした国際感覚が身につけられる。					◎	
海外留学科目	基礎・基幹・展開科目 海外経験	2～4	ISEP加盟校や学術交流締結校との留学生プログラムに参加し、国際感覚を習得する。					◎	